

(対象事業：地域連携強化事業・地域文化資源整備活用事業・ミュージアム支援地域人材育成事業・国際交流拠点形成事業)

事業名：文化庁「平成22年度 美術館・歴史博物館活動基盤整備支援事業～ふるさとの民話を語り継ぐ～」

事業者名：東北歴史博物館

住所：宮城県多賀城市高崎1丁目22-1

TEL：022-368-0101

FAX：022-368-0103

HPアドレス：<http://www.thm.pref.miyagi.jp/>

連携事業者名：利府民話の会、多賀城民話の会

会場：東北歴史博物館他

事業期間：平成22年8月2日（月）～平成23年3月15日（火）



## 1. 館の使命と本事業の関係

### (1) 館の使命

- 1, 東北の姿を自ら再発見し、東北の存在を広く世界に発信することにより、国際化の時代にふさわしい地域づくりとその活性化に貢献する。
- 2, 既存の博物館のイメージを脱皮し、類例のない新しい博物館のあり方を追求する。
- 3, 「明日の東北」を考えるきっかけづくりを重視し、実社会と積極的に交流する博物館を目指す。

### (2) 本事業との関係

当地の特色ある民話をテーマとし、語りを聞く機会の提供や伝承の体験活動を行うことは、使命1及び当館の目標とする「参加し体感する博物館」「豊かな情報を提供する博物館」「自ら研究する博物館」「文化財を後世に伝える博物館」の実践である。また地域の民話の会と連携・協働して事業を進めることは、市民による博物館活用のより多様なありかたを提示するものであり、使命2および当館目標の「参加し体感する博物館」「生涯学習ならびに調査研究に機会と場を提供する博物館」「豊かな情報を提供する博物館」「幅広く交流する博物館」を実現するものである。

## 2. 企画内容

### ①事業目的

宮城県内には各地に「民話の会」が存在し、地域に伝えられた民話の探訪や伝承活動が行われている。当館においても、教育普及活動の一環として、地元の「民話の会」との共催で、当館古民家を使用して民話を聞く会を定期的に開催している。

昨年度、地域文化芸術振興プランの事業として開催した「みやぎ民話の集い」では、県内の民話学習グループをはじめ、多くの参加者があり、好評を博した。これらの事業を通し、市民がより主体的かつ有効的に博物館を活用し、当館の多様な事業展開を市民とともに進めていくことの重要性がより明らかとなった。本事業は、上記昨年度実施の「みやぎ民話の集い」をさらに発展させ、地域に伝えられた文化資源としての民話の魅力を広く市民に伝えるとともに、地域で民話伝承活動を展開する市民と協働で事業を進めることを意図するものである。

### ②事業概要

事業はⅠ、Ⅱ、Ⅲと3つ企画・実施したもの。

- Ⅰ「民話にふれよう」は、地元民話の会2団体合計23名の語り手が交代で、古民家の囲炉裏端で民話を語ったもの。
- Ⅱ「民話を学ぼう」は、公募による地域の小学生28名を対象に、民話を実際に語ってみる体験教室を4週にわたって連続実施したもの。
- Ⅲ「民話を聞こう」は、有識者による民話についての講演。さらに小学生3名によるこどもの語り(Ⅱ事業修了生)、県内民話伝承者3名による伝承者の語りをそれぞれ聞くもの。

### 3. 事業実績

#### (1) 事業の主な内容及び日程

##### I 「民話にふれよう」

日時：平成22年10月10日(日) ①10:00～12:00 ② 14:00～16:00

話者：多賀城民話の会会員 合計13名(①担当)、利府民話の会会員 合計10名(②担当)

会場：東北歴史博物館 古民家(今野家住宅)

##### II 「民話を学ぼう」

参加対象：公募による地域の小学生、28名

指導：講師 利府民話の会4名、多賀城民話の会3名

①聞いて声に出そう(練習会第1回、会場：当館 研修室、大会議室)

日時：11月7日(日) 13:30～15:30

②短い話を覚えよう(練習会第2回、会場：当館 研修室、大会議室)

日時：11月14日(日) 13:30～15:30

③民話を探訪しよう(遠野見学会)

日時：11月21日(日) 8:30～17:30

バスを借用し、岩手県遠野市「遠野市立博物館」、「伝承館」などへの見学会を実施。現地で遠野の語り部の語りを耳にし、古民家を探訪して民話の生まれた環境を体感した。

④みんなの前で発表しよう(発表会)

日時：11月28日(日) 9時～15時

9:00～10:30…最終練習会(本館研修室、大会議室)

・発表会第1部 10:30～12:00(会場は博物館内の古民家にて)  
多賀城民話の会が担当のこどもたちの発表

・発表会第2部 13:00～15:00(会場は博物館内の古民家にて)  
利府民話の会が担当のこどもたちの発表



##### III 「民話を聞こう」

日時：平成23年1月16日(日) 会場：東北歴史博物館 講堂

①「こどもが語る民話にふれる～こどもの語り～」 13:00～13:20

IIの「民話を学ぼう」事業修了生28名の中から、代表で3名の小学生が発表した。

②民話研究者の講演会 13:35～14:35

民話研究者 武田正氏(山形文教大学短期大学部名誉教授)を招き、「民話を学ぶ」と題して講演会を実施した。

③「伝承者の民話を聞く～伝承者の語り～」 14:45～15:45

県内の民話伝承者3名を招き、民話の語りを聞いたもの。

#### (2) 参加者の数

参加者人数 延べ872人

内 訳：I. 「民話にふれよう」 囲炉裏端での民話(374名)

II. 「民話を学ぼう」①練習会第1回(28名)、②練習会第2回(28名)、③民話を探訪しよう・遠野見学会(35名)、④最終練習会・発表会(205名)

III. 「民話を聞こう」(202名)

### (3) 事業により作成した印刷物等

「こども語り手体験用 民話テキスト【多賀城民話の会編】」	13 頁	作成部数 40 部
「こども語り手体験用 民話テキスト【利府民話の会編】」	13 頁	作成部数 40 部
「利府民話の会テキスト民話（追加）」（利府民話の会編）	13 頁	作成部数 40 部
「遠野見学のしおり」	17 頁	作成部数 50 部
『ふるさとの民話を語り継ぐ』報告書	25 頁	作成部数 500 部

### (4) 実施事業に関する新聞記事等

#### ○新聞記事

- ・毎日新聞 平成 22 年 11 月 29 日朝刊 23 面  
古民家でのこども受講者発表のようす記事
- ・河北新報 平成 22 年 12 月 3 日朝刊 17 面  
民話語り体験教室発表会の様子記事

## 4. 事業の成果及び今後の課題

この事業を通じ、博物館として何を市民に提供できたかについて以下に述べることにする。参加した受講生については、アンケートを見ると、途中で脱落者が一人も出ず、受講生は楽しく講座を受けていた様子が見える。民話をおぼえて発表できた以上に、一つのことをやりきる事ができた自信、大勢の人前で話をする事のプレッシャーに打ち勝つ勇氣、そして何度も練習した末に発表しきった達成感等、こどもにとって、人にとって必要な成長の過程を、博物館として市民（民話の会）と協働で成長の場を提供できたことが大きかったと考えている。また学校という空間と違った、授業というかたちとは異なる、学校も学年も異なる子供たちが集い、お互いに励まし合い高めあう空間、そんな日常とは違った空間を、体験できる場を提供出来た事も大きかったと思われる。さらに、民話の会の講師の方々も、民話の講座を通じてこどもに民話を伝えることの意味を確認し、そして教える過程で講師自身も成長させられた過程でもあった。講師の感想からも伺えるように、教えた先生方も今後の民話活動において、無形の財産を育まれた様子が伺える。多賀城と利府の民話の会と協働で行ってきたこの事業は、所期の目標をクリアーしただけでなく、こども・講師の先生・そして博物館と、互いに得るものの大きさを実感できる事業であった。それは、アンケートや感想の文面から見え隠れする、それぞれの満足度の高さに表れているといえる。さらに、今後宮城県内各民話の会活動に、さまざまなアイデアと方向性を示唆する、そんな活動であったと自負をしているところである。

最後に、地域社会で活躍する市民団体と博物館の交流がこの事業でなされたが、別の観点として、異世代間の交流もこの事業で果たされたのではと考えている。世代を超えて民話を語らい、民話について考え、民話を伝えていく、そんな空間を提供できた半年間であったと思えてならない。今後各地の民話の会で、同じような活動が少しずつでも芽生えていくよう、そして本事業が継続の方向に向かって前進できるよう、前向きな努力が今後の課題と思われるのである。



<合記部、3月10日刊>  
民話発表会 (1/28)  
26日12時  
(1/29 毎日、1/30 河北新報)